

2016
(平成28年)

3.26 仙台SuicaエリアでicscaとSuica等との相互利用開始

10.31 プリペイドカードシステム(磁気カード)の利用停止

2017
(平成29年)

12.21 地下鉄東西線が平成29年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン
推進功労者内閣総理大臣表彰を受賞

2018
(平成30年)

4.18 漏電による地下鉄南北線全線運行停止

2020
(令和2年)

6.1 「計画運休」の導入

12.2 地下鉄東西線開業5周年記念事業実施

2021
(令和3年)

3.31 仙台市交通事業経営計画2021-2030(令和3~12年度)策定

5.18 地下鉄南北線新型車両デザイン決定

2022
(令和4年)

3.31 一般貸切旅客自動車運送事業(貸切バス・観光バス)の廃止

7.15 地下鉄南北線開業35周年

8.21 市バス運行開始80周年

2024
(令和6年)

2.15 「イクスカずめ」交通局マスコットキャラクターに

10.24 地下鉄南北線新型車両3000系運行開始

06

市民の毎日に寄り添い
次の100年へ

安全とサービスの 両輪で未来へ

東西線駅への結節強化で利便性アップ
アクセス向上を追求
市バスダイヤ改正

90

再発防止のために体制・マニュアル整備へ
地下鉄南北線漏電による
全線運休事故

92

時流に合ったサービスの提供へ
業務の効率化に取り組み
時代は「令和」へ

94

2024グッドデザイン賞受賞
地下鉄南北線新型車両
3000系デビュー

99



開業30周年を迎える 地下鉄南北線

昭和62年の開業から30周年を迎える地下鉄南北線と、開業当初から運行を支える職員たちの写真が市政だより平成29年7月号の表紙を飾りました。

2016 東西線駅への結節強化で利便性アップ アクセス向上を追求 市バスダイヤ改正

地下鉄東西線が開業した平成27年12月及び翌28年4月のダイヤ改正では八木山動物公園駅、薬師堂駅、荒井駅に整備された駅前広場を活用し東西線駅へのスムーズな乗継が強化されました。さらに利用者のニーズに応えるため、地下鉄全駅でタブレットを活用した案内サービスや忘れ物の傘を利用した「傘のレンタルサービス」が開始となりました。また、運賃等検索システム「せんだい市バス・地下鉄ナビ」のスマートフォン版サイトがスタートし、スマホ時代のスタンダードとなる利用環境を実現しました。



地下鉄東西線 開業1周年



東西線の開業1周年では様々なイベントが行われました。車両には記念ステッカーが貼られ、荒井車両基地では仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会&東西線に乗って車体洗浄機の通過体験もできる「わくわく音楽会」を開催。また、荒井東地区の復興街びらきとして

開催された「あらフェス」では車両基地見学会やミニSLの運行なども行われました。年末年始にかけては、東西線を舞台にした周遊型謎解きゲーム「WE QUEST」を開催したほか、東西線開業1周年を記念して「年末年始地下鉄一日乗車券」を発売しました。

2017 歩みを振り返りお客さまへの感謝を 市バス運行開始75周年 地下鉄南北線開業30周年

平成29年は、市バス運行開始から75周年、地下鉄南北線の開業から30周年の節目の年でした。これまで利用していただいた感謝を込めて、交通局感謝祭として9月3日に「バス・ちかまつり」を開催。会場は荒井車両基地で、地下鉄の検修場が初めて一般に公開されたほか、車体洗浄機の通過体験、特殊車両も展示しました。ミニSLの運行や東西線車両の運転席での記念撮影では多くの親子連れが列をなしていました。また、市バスの一般車両と一ふる仙台を1台ずつ展示、実際に運行するバスに絵を描く「お絵かきバス」コーナーも設けられ、家族みんなで楽しめるイベントとなりました。



初めて一般に公開された検修場



お絵かきバス

地下鉄東西線が『バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰』で 内閣総理大臣表彰を受賞

内閣府が実施している、バリアフリーやユニバーサルデザインの推進について顕著な功績または功労のあった個人・団体を表彰する「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」で、平成29年度に地下鉄東西線が全国の鉄道事業者として初め

て最高賞である内閣総理大臣表彰を受賞しました。お客様や建設事業に携わった方々と交通局との協働で授与された賞であり、仙台駅西改札と西1出入口間の壁面に、他の4つの賞※とともに賞状や盾を展示しています。



※他の4つの賞とは… ●第15回日本鉄道賞 ●第10回国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰 ●平成28年度鉄道建築協会賞 ●平成27年度照明普及賞

2018 再発防止のために体制・マニュアル整備へ

地下鉄南北線

漏電による全線運休事故

平成30年4月18日、地下鉄南北線で送電が止まり、全線の運転が約6時間止まった事故が発生。電車で電気を送る地下ケーブルが側溝の沈下によって押しつぶされたことが主な原因でした。事故による影響人員は約69,500人となり、交通局では「高速鉄道事故等調査委員会」を設置、専門家らとともに徹底的な事故原因の究明と再発防止策を立てました。

[事故発生日時]

平成30年4月18日 17時16分頃

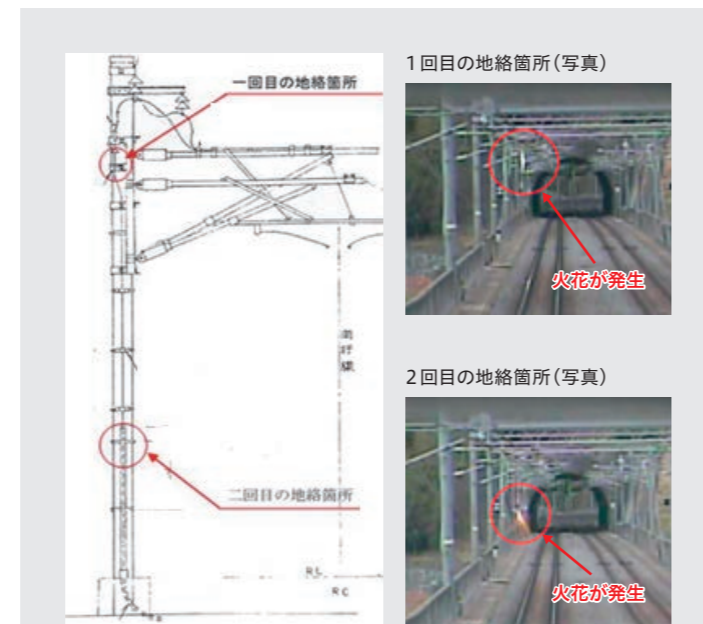
[事故発生場所]

地下鉄南北線八乙女駅～黒松駅間
(キロ程0k644m 南北線八乙女16号鋼管柱付近)

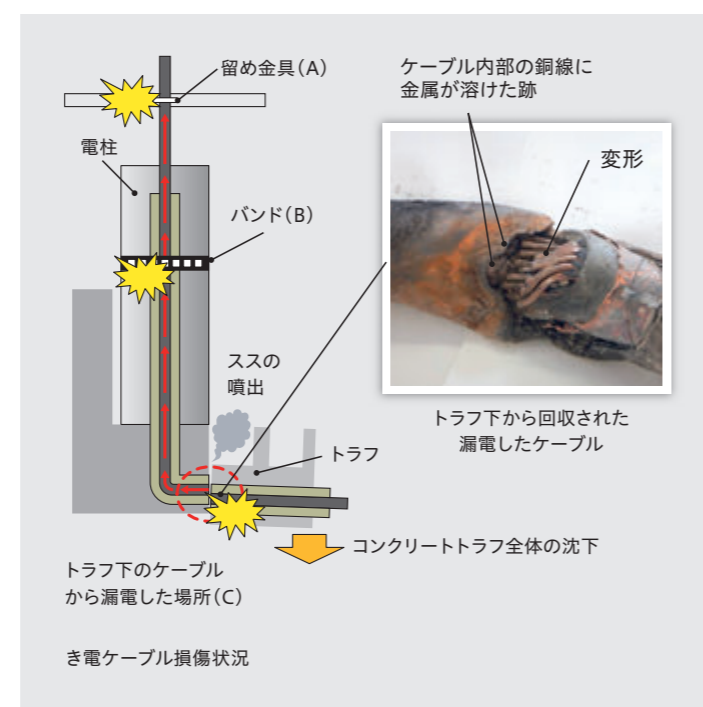
[事故現場における電気施設の特徴]

- き電ケーブル敷設時期：
昭和61年／約31年経過
- き電ケーブル種別：
交流用ケーブル／3.3kV CV400mm²
(単心架橋ポリエチレンケーブル)
- 電柱の構造：
鋼管柱(管径φ267.4／高さ7.5m)

事故のあった電柱の姿図と事故発生場所



地絡発生状況
※4月24日の消防局立ち合いの際は、2回の地絡と推測されていたが、後の調査で地面からの発煙が確認され、地絡は3回発生していたことが判明。



[事故発生時からの経緯]

時刻	交通局の対応状況
17:16	八乙女駅～車庫間 南・北行線 き電停止 土樋・長町南変電所停電(愛宕橋駅～検車庫配電室停電)
17:29	泉消防署八乙女分署から勾当台管区へ地下鉄高架より発火の情報 駅務サービス課、八乙女駅、総合指令所へ通報 長町南駅～富沢駅間 南行線に列車が停止していることを運転指令にて確認 当該列車のお客様について駅間避難誘導準備を指令 仙台管区/駅務助役3名に対し富沢駅に急行するよう指示 八乙女駅～黒松駅間 南行線架線から発煙との情報が指令電話より入る
17:38	八乙女駅に八乙女消防隊到着、事故現場に向かう
17:40	駅務サービス課からJR東日本に北仙台駅～長町駅間の代替輸送を依頼
17:42	駅舎系統の交流電源復旧 駅照明回復 消防隊が八乙女駅～黒松駅間に入る
17:48	長町南駅～富沢駅間南行線に停止している列車移動に、き電投入を行うため駅間避難誘導を一旦停止
17:56	停止していた列車が富沢駅に到着、お客様の避難完了(約70名)
18:10	電気課職員が事故現場に到着/復旧方法検討開始
18:25	市バス振替輸送開始
19:52	架線からの損傷ケーブルの取り外しを完了
20:20	八乙女変電所において損傷ケーブルの取り外しを完了
21:29	損傷ケーブルの絶縁不良、非損傷ケーブルの絶縁を確認
22:13	電気課/き電ケーブル1本での通常運転可能を確認し、鉄道技術部長と総合指令所に報告
22:35	応急復旧作業完了
22:52	全線き電開始
22:53	総合指令所から駅で待機していた運転士に対して出庫点検開始指示
23:25	車両および各駅ホームドア点検完了
23:30	南行線より順次運行再開

[再発防止策等]

「ケーブルトラフの沈下」が事故原因のひとつだったため、ケーブルトラフの下の隙間が確認された場所へモルタルを充填したり、軌道下の側溝上部まで敷設されていたパラストマットの撤去を実施したりするとともに、類似構造箇所の点検と対策も行われました。また、情報伝達に関しても、高速鉄道事故等調査委員会の様々な助言を取り入れ、職員の体制確保や災害・事故マニュアルの再整備を行いました。なお、利用者にも地下鉄での防災意識を共有してもらうため、翌年の4月には、「防災&マナーガイドブック」を作成(発行者:アドコーポレーション)しました。

2019 時流に合ったサービスの提供へ 業務の効率化に取り組み 時代は「令和」へ

人口減少時代へ向かう社会情勢もあり、市バスの乗車料収入の減少などから交通局の「経営改善」が求められています。業務の効率化を図るため、バス運転業務や駅業務を民間企業に委託するなど、様々な取組みを行いつつ、SNS公式アカウントの開設など利用者へのサービス向上も図りました。



令和元年東日本台風(台風19号)への対応

令和元年10月12日から13日にかけて台風19号が上陸し、仙台市内でも12日夜に大雨特別警報が発表。各地で土砂崩れや道路冠水が発生したため市バスや一ぶる仙台は迂回運行を行い、河川の氾濫に備え、川内営業所、七北田出張所のバスを木町通駐車場や地下鉄八乙女駅、旭ヶ丘駅へ退避させました。地下鉄各駅では止水板や土のうを設置し浸水に備えましたが、仙台駅の一部などが浸水しました。12日夜には一部の駅でエレベーターやエスカレーターが停止。夜

間に排水作業を行い、翌朝は全線始発から通常通り運行しました。また、交通局公式X(旧Twitter)や交通局WEBサイトでは運行状況や施設の復旧状況などを随時配信し対応しました。この経験を踏まえ、厳重な警戒が必要な台風の接近・上陸が見込まれる場合は、お客様や職員の安全を確保し、バスや地下鉄の施設や車両等への被害を最小限に抑え、早期に運行再開ができるようにするために令和2年6月から「計画運休」が導入されました。



出入口に止水板を設置



土のうを設置

2021 持続的な事業運営に向けて 中長期的な観点から 「経営計画」の策定

中長期的な事業の見直しや持続的な事業運営に向けた今後の取組みを市民の皆さまにご理解いただくため、初めての市バス・地下鉄両事業を一体化した経営計画として、令和2年度末(令和3年3月)に『仙台市交通事業経営計画2021-2030(令和3~12年度)』を策定。期間は令和3~12年度の10年間で、市バスの「仙台市自動車運送事業経営改善計画(平成29~33年度)」を1年前倒しで終了し、この計画に統合。総務省が各公営企業に対して策定を求めている「経営戦略」に位置付けました。策定にあたっては、交通分野・経営分野の有識者によって構成される「仙台市交通局中期経営計画検討委員会」を設置し、令和2年5月から4回にわたって開催。今後の交通事業の基本的な方向性等について、専門的な知見に基づく意見や助言を計画策定に反映させました。



戦略1 安全・安心の推進	戦略2 快適なお客さまサービスの提供	戦略3 まちづくりへの貢献	戦略4 持続可能な経営の確保
------------------------	------------------------------	-------------------------	--------------------------

2021 スマホひとつでもっと便利に 「仙台MaaS」サービスイン

仙台市では移動手段や目的地の検索・料金決済をスマートフォンなどで一括して行うことができるMaaS(マース: Mobility as a Service)を推進するため、令和2年12月に運営委員会を立ち上げ導入に向けた準備を進めました。令和3年10月30日の「仙台MaaS」サービスインに合わせて「一ぶる仙台一日乗車券」、「一ぶる仙台・地下鉄共通一日乗車券」、「120円パツ区一日乗車券」の販売を開始。ビジネスも観光も、チケット予約や料金決済もスマホひとつで完結することで、公共交通の利用促進につながるサービスと期待されています。



2020-2023

新型コロナウイルス感染症への対応

○令和2年1月に国内で新型コロナウイルス感染者が確認されて以降、わずかな間に全国各地に感染が拡大、4月には全国に「緊急事態宣言」が発令され、この間の小中高各学校などの休校や外出自粛等の影響によって4~5月の市バス・地下鉄の利用者は前年の半数程度まで減少しました。

○令和3年度の市バス・地下鉄の乗車人員および乗車料収入は、テレワークやオンライン授業、飲食店の営業時間短縮等による外出需要の減少などの影響を受け、令和元年度と比較して約2割減となりました。

○令和4年度は通勤・通学などの利用や外出需要が回復の兆しを見せましたが、令和元年度と比較して市バス約1.5割減、地下鉄約1割減となりました。

○令和5年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」に移行されましたが、感染予防・拡大防止対策として、「2類相当」時から引き続き、市バス・地下鉄車両について車内換気や抗ウイルスコーティングを実施したほか、市バス・地下鉄運転士、駅務員等利用者と接する機会の多い職員のマスク着用の徹底、車内放送等による感染症予防対策への協力の呼びかけなどを実施しました。



抗ウイルス処置が済んだ車両については、車内の乗降扉脇へ「抗ウイルス 抗菌処置済」のステッカーを貼付しました

[交通局の主な対応]

- R2.1.29 市バス・地下鉄運転士等について勤務中のマスク着用を開始
- 2.3 交通局WEBサイト、交通局公式X(旧Twitter)、地下鉄車内放送、駅構内放送等により「咳エチケット」等、感染症予防対策への協力を呼びかけ
- 2.27 市バス：車内の定期消毒を開始（～抗ウイルスコーティング完了まで）
- 2.29 手指消毒用アルコールの設置開始
- 3.2 地下鉄：車内の定期消毒回数を増加（～抗ウイルスコーティング完了まで）
高校生以下の通学定期券を最終使用日に遡って払い戻す措置を実施
（以後、順次対象を拡大し4月17日以降は都心バス共通定期券を除くすべての定期券を対象に実施）
- 4.10 市バス：窓を一部開放する等、車内換気を開始
地下鉄東西線：強制換気装置を稼働し、車内換気を開始
- 4.11 るーぶる仙台：運休（～5.31）
地下鉄南北線：窓を一部開放する等、車内換気を開始
- 4.15 地下鉄：駅の窓口に透明の間仕切りを設置
- 5.1 地下鉄：毎週金曜日の最終便（増発分）を運休
- 5.2 市バス：運転席の後部座席の着座制限を開始（～8.2）
地下鉄：ゴールデンウィーク期間の運行本数減
- 5.9 地下鉄：運行ダイヤの見直し、土・日曜の運行本数減（～5.31）
- 5.18 市バス・地下鉄：運行ダイヤの見直し、平日の運行本数減（～5.31）
市バス：運転席付近に防護スクリーン設置を開始
- 6.1 市バス・地下鉄車内で会話を控える旨の案内放送を開始（市バス：7月1日から自動放送でも案内開始）
交通局WEBサイト等で地下鉄の分散乗車の呼びかけを開始
- 6.12 地下鉄：車内混雑状況の公表を開始
- 7.17 市バス：車内混雑状況の公表を開始
- 7.22 るーぶる仙台：仙台駅前からの乗車人員を1便あたり35人を目安に制限
- 10.9 市バス：車内の抗ウイルスコーティングを施工開始（11.30完了）
- 10.19 地下鉄：車内の抗ウイルスコーティングを施工開始（12.23完了）
- R3.3.23 市バス：どこバス仙台でリアルタイム乗車人員の表示を開始
- 3.27 るーぶる仙台：運休（～5.14）
- 5.27 市バス：換気扇が装備されていない車両で雨の日でも窓を開けて換気が行える「雨除けバイザー」の設置開始（6.18完了）
- 8.30 るーぶる仙台：運休（～9.12）
- 9.3 不要になった定期券を最終使用日に遡って払い戻す措置を実施（都心バス共通定期券以外のすべての定期券を対象に実施）（～R5.3.31）

Pickup story

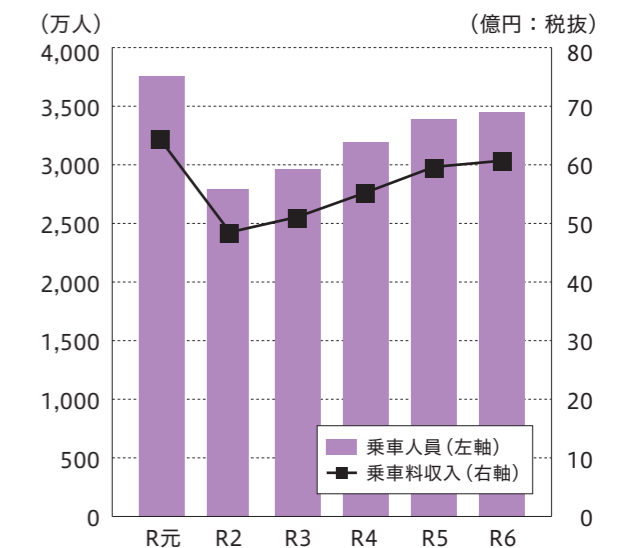
新型コロナウイルス感染症が経営に与えた影響

市バス

長期にわたる乗車人員の減少に追い打ちをかけるように、令和2年3月頃からのコロナ禍による外出自粛等により、乗車人員・乗車料収入は急激に減少しました。さらに近年は燃料費高騰や人材不足の影響により、運転業務の管理委託料も上昇傾向にありました。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した令和5年5月以降も、乗車人員・乗車料収入はコロナ禍以前の令和元年度までの水準に至らず、令和元年度と比較した減収の累積額は、令和6年度までで47億円に上りました。

[市バス乗車人員と乗車料収入の推移]

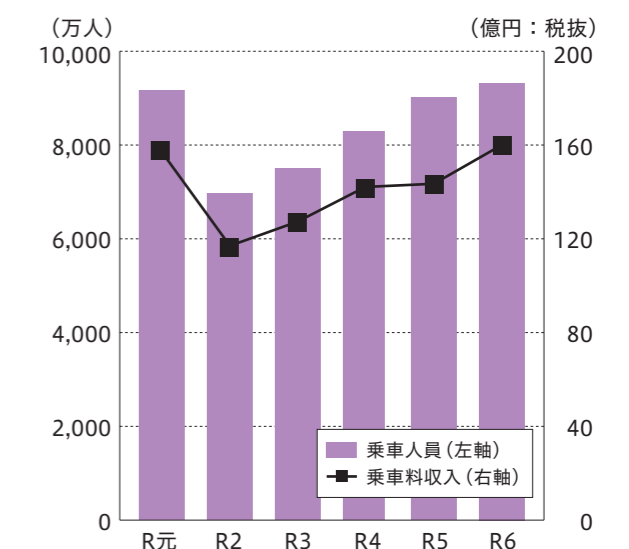


地下鉄

平成27年12月6日の東西線開業以降、南北線・東西線ともに乗車人員・乗車料収入は年々増加してきており、令和4年度頃には単年度黒字化を見通せる状況となっていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の乗車人員・乗車料収入は急激に減少し、収支状況は悪化。コロナ禍以前の令和元年度と比較した減収の累計額は、令和6年度までで90億円に上りました。

一方で、乗車人員は確実な回復を見せ、令和5年度に東西線で令和元年度を上回ると、令和6年度には南北線・東西線を合わせた全線でも、令和元年度の乗車人員・乗車料収入を上回ることになりました。

[地下鉄乗車人員と乗車料収入の推移]



2022 長年のご利用に感謝をこめて 市バス運行開始80周年 地下鉄南北線開業35周年



令和4年は、市バスが昭和17年8月21日に運行を開始してから80年、地下鉄は南北線が昭和62年7月15日に開業してから35年。長年にわたってご利用いただいた感謝をイベントの開催や記念グッズに込めました。例年車両基地で行われる人気の「バス・ちかまつり」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「バス・ちか探検ツアー」として参加人数を限定し開催されました。



特別な行先表示や80&35のヘッドマークを掲出したバス車両



「バスちか探検ツアー」鉄道模型の展示



ティナが一日所長に就任

2024 2024グッドデザイン賞受賞 地下鉄南北線新型車両 3000系デビュー

令和6年10月24日に営業運行を開始した地下鉄南北線新型車両3000系。泉中央駅で出発式が開催されました。新型車両のデザインコンセプトはWEB、駅の投票箱、地下鉄南北線の沿線に所在する小学校の6年生による投票の合計で『南北線車両からの進化』が選ばれ、令和3年5月に車両デザインが決定。「1000N系」車両を継承した造形と『杜の都』に馴染む配色のスマートなデザインとなりました。車内環境は冷房能力を1.5倍に向上。車体にアルミ2重構造とペアガラス窓を採用し、車内の静音性を高めるほか、車いす・ベビーカースペースと、座席中間の手すりを増設。各車両に車内カメラを設置し、バリアフリーとセキュリティー面を強化しました。無塗装化により環境負荷を低減するなど“ひととまちに優しい”3000系車両は「2024グッドデザイン賞」を受賞。1000N系車両は令和12年度にかけて順次新型車両に更新していきます。



泉中央駅で3000系出発式を開催



デビュー前に行われた内覧会



車いす・ベビーカースペースを増設

Point of view

“80-35”プロジェクトチームで「歴史のデジタル化」を未来に遺す

「市バス80周年×地下鉄35周年」の周年記念事業にあたり、交通局内でプロジェクトチームを結成し、WEBを活用した交通局資料の『アーカイブ』作成に着手しました。それまで交通局の倉庫内に保管されていた膨大な資料を収集、ネガフィルムやスライドの電子化、局内の聞き込みなどを重ねて整理し、時代を映す貴重な記録としてデジタル化されました。また、昭和の職場での「ラジオ体操」や平成初期の「家族参加の運動会」など、それぞれの時代における職場文化の変遷も伺う機会となりました。メンバー同士が助言をしたり、関係各所と協力しながら進めていくことで記念乗車券など希少性の高い資料も見つかり、これを契機にアーカイブを遺し、交通局の歴史や知見を継承する基盤を築くことができました。昭和、平成、令和と、仙台市民の日々の暮らしと街の発展に寄り添ってきた公共交通の歩みが、鮮やかな記憶のまま次の100年へと受け継がれます。



一部の古い写真をカラー化したことで当時の雰囲気をリアルに再現

Point of view

次の100年後に“名車両”と呼ばれるように—

3000系車両設計時は『コロナ禍』であり、市民の意見をどうやって取り入れてデザインするかが課題で、ワークショップ等の対面での意見交換はやめてWEB等の投票という形になりました。また、東西線開業前の試運転にはなかった「営業路線で試運転」を行うための準備と工程調整が困難でしたが、幾日も夜間作業を重ね、関係各課の協力により万全の準備を整えました。設計担当者は、これまでの実績や信頼性、冗長度を重視し、安定的な輸送を維持することが仙台市民の“足”として最重要と位置づけました。営業運行までは課題やプレッシャーもありましたが、自分たちが設計したものが実際にお客様に利用していただける喜びがあり、グッドデザイン賞も車体製造の日立製作所の協力や投票で選ばれたデザインが受賞でき嬉しかったと振り返ります。「次の100年後も仙台市地下鉄が残って発展し、設計に携わった2000系・3000系が名車両と呼ばれていたら嬉しいです」。



内装は、定禅寺通のケヤキ並木をモチーフとした座席柄で、1000N系の配色を受け継ぐカラーデザインになっています

Thank you for 100 years 想いをつなぐ感謝のメッセージ

通勤中の朝の車内放送で、月曜日の朝は憂鬱な空気を吹き払って頑張らしようといった内容のコメントを追加されたり、天候が悪い時は足元に気をつけてくださいなど、混雑の中、本当に癒されました。車内の張り詰めた空気感が和らぐ瞬間を感じました。

(地下鉄南北線 令和元年頃～数年間)

娘が高校から寮に入り、運転が苦手な私は電車と市バスを乗り継いで月に1～2回ほど部活の役員会に出席していました。1日ばかりでしたが、娘の練習している姿をみたり情報交換できたことは今では懐かしい思い出です。

(市バス 令和2年頃)

数年前、自分がやっていた競技を娘もしており、パパ観に来てと言われて仙台市体育館へ、当時の自分の中総体会場と同じ場所へ。南北線に乗った時は車窓からの当時の景色と会場へと向かうドキドキ等昔の気持ちを思い出しながら時の流れと親としての幸せを感じつつ乗りました。

(地下鉄南北線 令和4年頃)

ずっと市バスは生活にかかせない足となっています。こどもの頃は両親と一緒に買い物へ行く時に利用し、学生時代は通学で利用し、社会人になってからは市バスと地下鉄を乗り継いで通勤で利用しています。車を持っていないのでバスが頼りです。これからも頼りにしています。

(市バス 令和7年頃)

孫が3歳の頃ベネランドに行き、帰りの東西線の中で眠られ、仙台駅から背負い駐車場まで歩いた思い出があります。

(地下鉄南北線 令和2年頃)

推し活でよく地下鉄を利用しています。ほとんど遅れることなく時間通りに運行しているので予定が立てやすく有難いです。また時々各駅にポスターやパネルを掲示してくれるなど、ファンにとってはとても楽しく思い出深い路線です。これからもどうぞよろしく願いいたします!

(地下鉄南北線 令和4～6年頃)

いつも安全運転で歩行者の味方、暑い日や寒い日はバス停で待っていると市バスの登場がヒーローのようです。乗らずとも格好良く頼もしくて思わず足を止めて行き先に思いを馳せながら発車オーライまで見守ってしまいます。

(市バス 令和7年頃)

東西線沿線に住んでいる我が家。2歳の息子はぶつぶに電車と乗り物大好きなお年頃。地下鉄に乗って動物園に行こう!と乗り気だったのに、いざホームに来るとこわい、と3車両も見送り。これはのれないなあ諦めて家に帰っている途中で、やっぱりのりゅ。(乗る)と。今からかあと途方にくれましたが、本人が気持ちを切り替えたようで、やっとこのれたのが、いい思い出です。

(地下鉄東西線 令和7年頃)

次の100年へつなげる

新たな経営計画の策定

「仙台市交通事業経営計画2021-2030(令和3～12年度)」策定当時の想定を上回るコロナ禍の拡大・長期化により、市バス・地下鉄ともに乗車人員・乗車料収入は大きく落ち込み、同計画の見込みと実際の状況には大きな乖離が生じました。また、減収を補填するための多額の企業債の発行、コロナ禍を契機とした人々の生活様式の変化や、昨今の物価高騰等の影響により、交通事業をめぐる経営環境は大きく、急激に変化してきました。

元々経営計画は、国が地方公営企業に策定を要請している「経営戦略」として位置付けており、国の指針に則り、5年ごとに見直しを行うこととしていました。しかし、交通事業を取り巻く急激な環境の変化に適切に対応するため、「想定を上回るコロナ禍による影響」「計画策定時から大きく変化した事象」「その他新たに盛り込むべき視点」を踏まえた上で、「新たな10年の経営計画」を策定することとしました。

新たな計画の策定にあたっては、令和5年7月に設置した「仙台市交通事業経営検討委員会」において、外部有識者より意見や助言をいただき、合計で12回の委員会を開催し、議論を深めてきました。

新たな100年に向けて、はじめの1歩を踏み出す

新たな計画となる「仙台市交通事業経営計画 2026-2035(令和8～17年度)」では、以下を基本方針に掲げ、市バス事業と地下鉄事業それぞれに、3つの財政目標を定めています。

本市の人口減少局面の到来や年齢構成の変化、経済情勢に起因する物価変動、脱炭素の取組みへの要請など、事業を取り巻く環境が様々に変化する中であっても、地方公営企業法の基本原則に掲げられる「常に企業の経済性を発揮するとともに、その本来の目的である公共の福祉を増進する」ことを踏まえ、安全・安心を最優先に、快適で便利なサービスを提供する交通事業者としての役割を果たしながら、将来にわたり仙台のまちづくりに寄与するため、持続可能な事業運営を目指します。

市バス事業

- ① 経常収支の均衡
- ② 資金不足比率 20%未満を維持
- ③ 路線の赤字補填等に係る一般会計補助金額の縮減

地下鉄事業

- ① 経常収支の黒字化と黒字の継続
- ② 累積赤字の低減
- ③ 資金収支の均衡

また、基本方針と財政目標を踏まえ、市バス・地下鉄の両事業で目指すべき姿を示す4つの戦略を定めるとともに、戦略に基づき具体的な取組みを進めていくこととしています。

戦略Ⅰ

安全・安心の推進

- 施策1 安全運行の確保
- 施策2 危機・自然災害への対応
- 施策3 施設設備の計画的な維持更新
- 施策4 だれもが安心して利用できる環境整備

戦略Ⅱ

快適で便利なお客さまサービスの提供

- 施策1 接客サービスの向上
- 施策2 利便性の高い運賃・乗車券制度
- 施策3 データに基づく施策検討
- 施策4 多様化するニーズと「分かりにくさ」解消に向けた新たなサービスの提供

戦略Ⅲ

まちの将来に向けた行動

- 施策1 持続可能なバス路線網の確立
- 施策2 交通政策との連携
- 施策3 福祉政策との連携
- 施策4 観光政策との連携

戦略Ⅳ

持続可能な経営基盤の確立と事業運営

- 施策1 経営状況の見える化
- 施策2 事業の省力化・効率化
- 施策3 収入増と経営状況の健全化
- 施策4 乗車人員の確保
- 施策5 人財の確保・育成

加えて、公営企業として、公共の福祉の増進に資する取組みを推進するため、国の要請や仙台市の施策の方向性を踏まえた社会的要請について、関連する事業を整理し、着実に対応していきます（社会情勢の変化や新たな視点の追加に即応性をもって対応できるよう、4つの戦略とは別にとりまとめ、随時の見直しを行います）。

1. 「子育て支援」の要請に応える主な事業

- ハッピー・ファミリー・ライド(小児運賃無料化制度)
- 学都仙台フリーパス
- 1ねんせいをはじめてきっぷ、中学3年生卒業おめでとうきっぷ
- 交通局主催イベントの開催



ハッピー・ファミリー・ライド(小児運賃無料化制度)

2. 「脱炭素の取組み」の要請に応える主な事業

- 営業所等施設の電力費等低減
- 電気バスの導入
- 駅構内等施設の電力購入量低減
- 再エネ・省エネ設備の設置・管理



電気バス走行実験の実施

3. 「DXの取組み」の要請に応える主な事業

- 仙台 MaaS デジタルチケットの販売
- クレジットカード決済による乗車への対応
- 市バス・地下鉄に関するデータのオープンデータ化
- ビッグデータを活用した分析と検証



4. 「ダイバーシティ推進」の要請に応える主な事業

- 車内マナー啓発活動の実施
- 駅構内等の案内サインの検討・改善
- バリアフリー施設の設置
- 多様な職員が使いやすい施設・環境整備



車内マナーアップ啓発活動

これからも、お客さまとともに、このまちとともに

市バス、地下鉄は、仙台市民の皆さまをはじめとした、様々なお客さまの身近な移動手段としての役割を、長年にわたり担ってまいりました。本市を十字に貫く地下鉄は、一日に26万人もの人々を運ぶ交通の大動脈となっています。また、市バスは、広い市域をカバーする交通手段として、多様な路線網を維持してきました。

コロナ禍を経て、急激な経営環境の変化の中、事業運営は厳しさを増しています。近く到来する本市の人口減少局面の中にあっても、市バス・地下鉄を市民の皆さまの身近な移動手段として次の世代に引き継いでいくために、持続可能な経営を確立することが求められています。

仙台市交通局は、新たな経営計画に位置付けた取組みを着実に推進しながら、お客さまの生活や経済活動を支える交通インフラの担い手として、責任感を持って事業運営を進め、新たな100年をお客さまとともに歩んでまいります。